

〈目的〉一億総グルメ時代と言われる一方で、家庭料理の崩壊が心配されている。女性の料理に対する関心度は人によって大小があろうが、それを客観的かつ定量的に測定する尺度を開発し、『女性の料理関心』についての分析を試みようとするものである。

〈方法〉GI、プレテスト2回及び本調査(有効回収1354)等を経て、料理関心測定尺度を開発。併せて実施した食生活、食実態調査と料理関心測定値との比較分析を行なった。

〈結果〉①料理関心を一元的に計るのではなく、食に関する8分野(作る、食べる、味、栄養、真心、雰囲気、情報、合理性)を設定し、多元的に捉えることにした。②8分野73個の項目に5段階評価で答えてもらい、その結果から料理関心度を算出する方法を作成。③個人の測定値は図1のように表される。1354人の値は各分野15~70点程度。④属性や食生活状況などの項目で料理関心度を比較分析すると差が明確にでた。図2・3 ⑤作る関心に影響する要因としては母親に料理を習った経験、栄養関心では母親の栄養面での教育、食べものの好き嫌いなどが挙げられる。

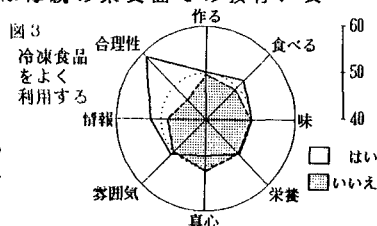
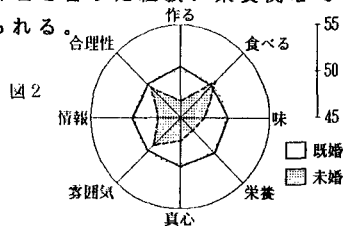
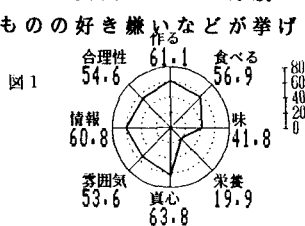


図3
冷凍食品をよく利用する